

第5回審議会 欠席委員からの意見

来週会議の出席が適いませので、最後に総括として申し上げさせていただければと存じます。

なお、ここで書かせていただきましたことは、私としては何も臆することでもございませんので、会議の場で公開願えましたらと存じます。

・会議当初より、何らかの具体的成果を出すことができないのなら会議を行う意味がない旨を私は数度に渡り述べていたかと存じます。元より答申を期限までに仕上げるのが目的化していたため、一切の期待はしていませんでしたが、予測通り単なる回数をこなして、内容の乏しい「答申」を出すだけの儀礼的審議会で終わったかと感じます。

ついては、これだけの人数を平日に集め、日中執り行うべきものでもないかと考えますので、当審議会のような類のものは廃止されるのが良いのかと考えます。

私は、日当（費用弁償）をご辞退させていただき、微力ながらも生まれ育った「村」に少しでも還元できることができればと思い、手弁当で審議会参加をさせていただきましたが（時間的都合で、欠席せざるを得なかった場もあったことは率直に申し訳ありませんでしたが）、ただ無益な時間を過ごしただけに終わったように感じています。

昭和52年に条例とした「村総合計画審議会条例」に基づき、形式的に今日までかような無駄なことを行ってきたのかと存じますが、時代は日進月歩どころか『分進秒歩』ぐらいのスピードで変わっています。

かような無駄な時間を過ごす余裕は、本村どころか我が国全体にもグローバル社会のなかで全くないかと考えます。

・具体論ですが、答申案49ページの「重要政策会議」の位置づけですが、結局何をやるのか、権限はいかほどあるのか全く明確な回答もなく、私が審議会当初お尋ねした以来、放置されています。

村職員の方を中心に自分たちで勝手にやるというのなら、そもそも審議会の答申に入れる意味も乏しいですし、私としては田中力哉委員を始め、この村の将来を想う、優秀な若い人たちがいらっしやることも本審議会でも理解できましたので、そういった方々を組織内部に入れて喧々譁々の議論を行い、実行権限かつ予算も付与して着手実行いただくのが良いのではと考えています。

そういうことから、有識者会議の必要性は大変乏しく、「自分たちの住むところのことは自分たちで考える。自分たちの将来は自分たちで決める。」といった姿勢が地方自治に於いては何より重要と認識しますので、村に意見ある人が自由に参画できるフラットかつフラットな会議の場で良いのかと考えます。

無論、日当等の費用弁償も必要なく、「志」ある自らの意見が村の将来を良くすると「見える化」できれば、手弁当で参加してくれる人たちはいくらでもいると認識します。

・資料2の答申書の表を見ましたが、答申ですから「期待します」は些か他人事過ぎはしないかと率直に思いました。

ご参考までに私が徳島県三好市で参加させていただきました「行政改革推進委員会」の答申書を添付でお送りします。

本村の答申書内容が単なる事務方の分析・論評・実現を担保しない目標数値の羅列に過ぎないと言っても、答申の表に「議論が尽くせず、具体的制度設計もできなかった」「本審議会の必要性に疑義がある」「村活性化を強力に推進できる村民自由参加型会議の構築が必要」といった改善提案は書けるのかと認識します。

以上、簡単ではありますが率直に自らの考えを整理させていただきました。

今回の審議会で審議終了なのかと存じますが、幼き頃より育ていただいた本村は、私の「心」の故郷ですので、なくなっても失望させられても困りますし、また他の地域の方にも知っていただいて、来訪いただきたい存在でもあります。

今後、何らかの機会で、本村に意見や参画できれば私にとりましてこの上ない喜びですので、その節はよろしくお願い申し上げます。

この度は、委員委嘱賜りまして、誠にありがとうございました。